

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成21年 6月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	薩摩川内市横馬場町8番11号 (電 話) 0996-23-6000

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年6月19日

【情報提供票より】(21年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.85 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~44,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高江病院、Kメンタルクリニック、やなぎだ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅に近い住宅街に医療機関、老人保健施設と併設して建つホームである。普通の家屋を改装し、玄関やリビングは落ち着きのあるたずまいで、気に入った場所で思い思いの様子で過ごす利用者の姿がある。利用者の意思を大切にするという理念に沿い、利用者と毎年の目標を決め、評価し、それを次年度につなげている。職員の研修機会も豊富に確保されケアに対する意識が高く、運営推進会議で提案された課題に対して、ソフト食の試作や運動量の測定など細かい取り組みを続けている。さらに、利用者のつづやきから料理教室を企画し、料理指導者やテーマの書写など役割を考えたり、お化粧し盛装して写真撮影をする「よそ行き写真会」を楽しむなど、生き生きとした会話を引き出し、力を発揮するための「仕掛け」を作り、何気ない暮らしの中から利用者の隠れた力を探っているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者も職員もケアを見直す良い機会にしたいと認識している。昨年度の外部評価の結果を職員会議で伝達し、具体的な取り組みを始めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は分担して各々の職員が考えたものをまとめたもので、運営者も確認し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに開催され、福祉アドバイザー、大学より学識経験者、地域包括支援センター職員、家族代表などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、継続的な取り組みや改善経過のモニター役としての意見や助言があり、極めて有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員が要望を把握した際には申し送りノート等で他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。また、行事と同時に家族交流会を開催し意見や要望を把握するように努め、直接出しにくい場合は法人事務室に伝えてもらうように常々声をかけている。玄関には意見箱とアンケート用紙が設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、散歩や立ち寄る店では出会う地域の方へのあいさつや声かけ、小学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくり力を入れている。また、併設施設と共に介護教室を計画・開催し、地域に貢献している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族や地域との絆を大切にします」と職員が話し合っ て作った独自の理念があり、地域に根ざしたサービスを意 識できる内容が盛り込まれている。さらに、理念に基づき 毎年利用者と共に目標を立て、評価項目に応じて目標 の評価を行い、次年度の目標につなげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向 けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で理念を確認し介護 に取り組んでいる。また、作成された理念は職員のみで なく来所者にも理解してもらえるように、玄関・ホール・休 憩室などに掲示している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元 の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、散歩や立ち寄る店で出会う地域の方 へのあいさつや声かけ、小学生との交流、地域行事への 参加などにより関係づくりに力を入れている。また、併設 施設と共に介護教室を計画・開催し、地域に貢献してい る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	運営者も職員もケアを見直す良い機会にしたいと認識し ている。昨年度の外部評価の結果を職員会議で伝達 し、具体的な取り組みへの話し合いをしている。今回の 自己評価は分担して各々の職員が考えたものをまとめ たもので、運営者も確認し、サービスの質を向上させるた めに有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	2ヶ月ごとに開催され、福祉アドバイザー、大学より学識 経験者、地域包括支援センター職員、家族代表などの 参加がある。事業所行事の報告のみではなく、継続的な 取り組みや改善経過のモニター役として、出席者の意見 や助言などがあり、極めて有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域連携室へ出向いたり、電話による連絡で事務手続きや相談をし情報交換を行っている。また、法人管理部長は、認知症研修にも携わり、現場の視点で市担当者に課題を伝えながら、協働して解決を図るための関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に暮らしぶりを伝えたり、ケアプランは3ヶ月ごとに説明、ホーム便りも2ヶ月ごとに配布している。職員の異動については面会の際や広報誌にて報告し、預かり金は家族の理解を得て少額のみを本人管理としているため発生しない。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が要望などを把握した際には申し送りノート等で他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。また、行事と同時に家族交流会を開催し要望を把握するように努め、直接出しにくい場合は、法人事務室に伝えてもらうように常々声をかけている。玄関には意見箱とアンケート用紙が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、グループホーム職員の適性を考慮したうえで採用や異動を検討している。今回の調査対象期間では異動はなかったが、異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修は受講内容について年間計画を立て、施設外研修は管理者が経験に応じ個別に職員にヒヤリングし、希望を聞きながら紹介したり、資格取得を紹介したりしている。その際には勤務の調整をしたり受講費を法人が負担するなど積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水川薩地区グループホーム協議会に加入し、薩摩川内市・阿久根市・出水市・さつま町の事業所などと交流しながら介護技術の向上や意見交換の機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に本人にできるだけホームの見学をしてもらい、お茶を飲みながら会話することで様々な情報を把握するように努めている。施設からの入居では担当者と連携し、施設で作成されたサマリーなどを参考にしながら本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらうなど協力を求め、ともに支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法など得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを覚えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者同士の話しやすい話題を提供し会話や情報交換が活発になるように配慮している。昼食の際も会話が多く、利用者から職員が褒められたり、利用者同士の気配りもうかがえた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。化粧をした後のつづやきを逃さず、「よそ行き写真会」に結びつけるなど、常に思いの把握に努めている様子がうかがえる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で必要があれば主治医、家族も参加し、利用者や家族の意向を基に話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、職員の気づきや利用者の意向を反映している。利用者の特技を活かし、料理教室開催をケアプランに組み込むなど生きがいづくりにもなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画を毎日確認し、計画にそって実施したサービスを記録している。さらに、毎月1回は介護支援専門員と担当職員が評価を行い、状態に変化があり計画の見直しが必要な場合はそのつど、特に大きな変化がない場合でも3ヶ月ごとに担当者会議を開いて再度計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援、歯科往診、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。また、法人施設での介護教室の開催は準備の会議から参加し協働して行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、訪問診療との連携やホームの看護職員により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後早期に本人や家族と話し合い、対応方針を主治医と話し合い、職員にも伝達し共有を図っている。終末期も対応したいが、吸引などの医療行為の調整が困難で、現在は重度化した場合や終末期の人を対象にしている。医療連携体制はとっていないが、重度化した場合などのグループホームとしての方針を全職員で話し合い今年度末までに明文化したい意向である。	○	医師・看護師などを含め関係者が急変時に対応できるよう話し合いを持ち、方針の統一と明文化が図られることを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に個人情報保護方針の掲示があり、職員研修にも毎年組み込んでいる。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合い、個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。外出・着衣・化粧を含む理美容などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に献立についての話をしたり、買い物に行ったりしながら、生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。嚥下体操をして口腔環境を整えた後で職員も一緒に会話を楽しみながら食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。また、入浴を嫌われる方には入浴剤を入れしっとり肌の感触と芳香でリラックスできるように工夫したり、入浴時間帯や声かけの仕方を工夫するなど入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノ演奏・畑仕事・花生け、短歌、書道など生活歴から好きなことを見つけたり、入居後に新たに力を引き出したしながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。また、料理教室の開催を企画し利用者の力に応じた形で参加ができるような仕掛けを作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、祭り見物、畑仕事、外気浴など戸外に出る機会が多い。体の状況により外出が難しい利用者も、本人の体調や希望にあわせて、少しでも風に当たるなど気分転換やストレス発散、五感を刺激する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵をかけない自由な暮らしの重要性は認識しているが不審者情報があり日中も施錠している。しかし、施錠について身体拘束廃止委員会で定期的に研修や検討を行い、利用者の外出を妨げないように常に様子を見守り外出は自由である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と共同での夜間を想定した避難訓練や消火訓練を行い、独自でも毎月年間計画を立て災害対策を行っている。緊急時の連絡網は職員寮や併設施設の職員を入れて作成し、協力をお願いしている。飲料水、食品等の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や水分摂取量を個人別に毎日把握し、一人ひとりの運動量・体重・排泄状態も観察しながら身体の状態を判断しケアに活かしている。栄養バランスや献立については管理栄養士のアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。また、一人ひとりの能力を見極め、食材の切り方(一口大や短冊切り)や食事形態(ソフト食)を工夫し、そばで見守るなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家屋を利用した建物で、落ち着いた居心地の良い食堂に花が飾られ、食卓やソファで利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。共有空間の飾りつけは利用者と制作した手作りの作品など、利用者と一緒に語り合えるように工夫され、台所で料理をする様子も感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子・テレビ・テーブル・位牌など馴染みのあるもの大切なものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。またさまざまな広さの部屋があり、趣味の用品や写真やお便りなどが飾られその人らしい部屋になっている。		